

平成16年8月5日

報道機関 各位

情報化推進部情報企画課長
河野 登

広島大学と浜松ホトニクス株式会社との包括的 共同研究契約の締結について

このたび、広島大学と浜松ホトニクス株式会社は、「光と物質の相互作用」を基本的なテーマとする複数の共同研究を行うため、別紙のとおり、包括的共同研究 契約を締結しましたのでお知らせいたします。

【問い合わせ先】
別紙記載のとおり

[発信枚数;A4版 2枚(本票含む)]

○ [共同研究契約の締結について\(pdf形式\)](#)

2004年8月5日
国立大学法人広島大学
浜松ホトニクス株式会社

国立大学法人広島大学と浜松ホトニクス株式会社が包括的共同研究契約を締結

国立大学法人広島大学(広島県東広島市,学長:牟田泰三)と浜松ホトニクス株式会社(静岡県浜松市,代表取締役社長:晝馬輝夫)は,このたび,「光と物質との相互作用」を基本的なテーマとする複数の共同研究を行うため,包括的共同研究契約を締結することに合意し,今般調印の運びとなりました。

両者は,相互の連携推進によって研究開発力の更なる向上と研究成果の社会活用を図るとともに,産業の健全なる発展と科学技術の振興に貢献することを目指します。

「世界トップレベルの特色ある総合研究大学」を目指す国立大学法人広島大学は,社会に対して,大学の有する知的・人的・物的資源を積極的に開放・活用し,社会と密に連携した継続的なイノベーションによる未来社会の設計と建設に貢献することが,基本的使命の一つと考えています。広島大学には,放射光科学研究センター(HiSOR)をはじめ,理学研究科,先端物質科学研究科など「光」の分野で層厚く研究者を擁し,多くの成果を挙げています。

一方,浜松ホトニクス株式会社は,創業以来一貫して光の未知未踏領域を追求し,新しいサイエンスに欠かせない光の極限計測のための検出器をはじめ,光の基礎研究・応用研究を積極的に推進してきました。ますます高まる光の重要性を認識し,光技術を使った新しい産業の創成に取り組んでいます。単一技術だけでは商品開発にとどまりますが,産業創成には,多くの異なる技術や知識の複合が必要です。また,何をなすべきかという産業創成の基本的発想は,いわゆる理科系のみならず,文科系の知識発想が大事だと考えています。

このような背景の下に,両者は積極的に共同研究をはじめとする産学連携を推進することで合意し,今回の契約締結に至りました。

今回の契約において,「光」で社会に貢献するという共通の目的の下,両者の保有資源を有効に活用するために今後推進する共同研究に関して,機密保持や知的財産の取り扱いなどの基本的枠組みを定めました。

共同研究を行うテーマについては,既にいくつかの個別テーマに関して検討を進めており,このたびの調印により,我が国のものづくりの将来,国際競争力のある科学技術の発展とその実用化に道を拓くものと考えています。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

国立大学法人広島大学
産学連携センター教授 久保 元伸
T E L : 082-421-3704 F A X : :082-421-3788
E-mail : kubomo@hiroshima-u.ac.jp
U R L : <http://home.hiroshima-u.ac.jp/techrd/>

浜松ホトニクス株式会社
広報室 海野 賢二
T E L : 053-452-2141 F A X : 053-456-7888
携帯電話 090-4080-3501
E-mail : k-unno@hq.hpj.co.jp